

ファミリーミュージカル

王子と少年

～作品概要～

原作は、アメリカの文豪 ローク・トウエンが1881年に書いた著書「王子と乞食」。ローク・トウエンといえば「トム・ソーヤーの冒険」「不思議な少年」「ハックルベリー・フィンの冒険」など、多くの名作を世に輩出しています。中でも「王子と乞食」は、2年の歳月をかけて完成させた会心の作と言われ、彼自身も「万一、この書物が唯の1冊も売れないようなことがあっても、自分がこれを書いていた間に味わった芸術的幸福はいささかも減じない」と、友人に送った手紙に記しています。

～ストーリー～

舞台は 16 世紀のイギリス ロンドン。同じ年の同じ日に生まれた王子のエドワードと、貧しい少年トムは双子のようにそっくり。トムは毎日のように“王子様ごっこ”をして遊んでおり、いつの日か素敵な王子様になることを夢見ていました。

ある日トムは、ひよんなことで本物の王子様 エドワードと出会いました。エドワードはトムのボロボロの服・気ままな生活に興味をもち、トムはエドワード王子のきれいな服・豪華な宮殿を羨ましがります。そこで二人は着ている服を取り替えてみました。するとどうでしょう。どっちがトムで、どっちがエドワードか見分けがつかなくなってしまうではありませんか。王様も家来もトムを本当の王子と思い込み、町の人たちはエドワードを王子様気取りの変なヤツだとかからかいます。



撮影：下坂敦俊（写真はこれまでの公演より）

ある日、エドワードの父である国王が亡くなってしまいます。さあ大変、エドワードはすぐに京城に戻らなければならないのに、ボロボロの服を着た彼を誰か王子だと信じてくれません。

このままではトムが次の王様に!? 入れ替わった二人は、元の自分に戻ることでできるのでしょうか？

～『こころの劇場』とは～

子どもたちの心に、生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜びなど、人が生きていく上で最も大切なことを舞台を通じて語りかけたい。主催の一般財団法人舞台芸術センターと劇団四季、多くの企業や行政の方々のご賛同を得て始まり、日本全国の子どもたちに演劇の感動を届けるプロジェクト、それが「こころの劇場」です。子どもたちの頃に触れる経験は、生涯決して色褪せることのない財産になると考えております。2025年度につきましても、皆様のお力添えを賜り、子どもたちへ感動の輪を広げていきたいと願っております。